

「次世代目録所在情報サービスの 在り方について(中間報告)」 に対する意見

筑波大学附属図書館
高橋 努

平成20年6月6日(金)
NIIオープンハウス2008
ワークショップ「次世代の目録所在情報サービスを考える」

国大図協要望書のあらまし

デジタル情報環境下における
利用者サービス機能の強化を第一の目標とした、
今後の大学図書館システムの方向性

電子リソースの
アクセシビリティを高める

孤島のシステムから
ブリッジ型システム・ユビキタスな図書館へ
利用者が一次情報に到達できる
サービスを

書誌・所蔵データ作成の
ワークフロー再構築

ASP／SaaSモデルの
図書館システム

大学図書館がサービス機能の強化を
図っていくために、
NIIに担ってほしい役割

電子リソース管理機能の提供

総合目録DBの
データ開放と外部サービスとの連携

ILLの機能改善と直接サービス化

総合目録DBのあり方の見直し

「中間報告」に対する意見(1)

- データ構造、データ作成基準の見直し
 - 国際標準の動向と同時に、
業務効率化の観点も
- NACSIS-CAT外にある書誌データの活用
 - 書誌入力のコストを誰が負担するのか
 - 目録の品質保持と省力化・効率化

「中間報告」に対する意見(2)

APIの公開と課題

- 目録所在情報は公共財として基本的には公開すべき
利用者の利便性、目録所在情報の視認性の向上
- 参加館の合意が前提
- 参加館側でも議論を
- 共同分担目録の理念そのものが瓦解？
→ 共同分担方式の最適化のなかで考え、
API公開は、切り離して進めては
- 検索エンジンへのデータ開放について